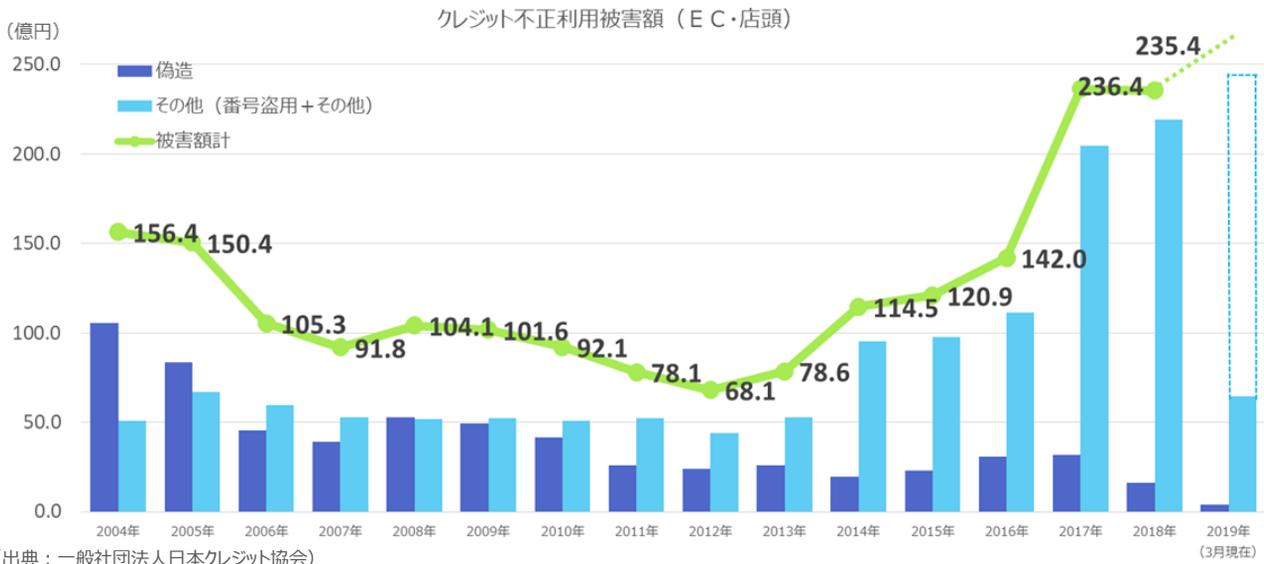


⚠️ ご注意ください

クレジットカード払いにおける不正利用とチャージバックについて



1. ECでのクレジットカードによる不正利用が増えています



従来の偽造カードによる不正利用ではなく、ECサイト等から漏洩、盗取したクレジットカード情報を悪用した第三者不正使用が増加し続けています。



2. 運営するECサイトで不正利用が発生すると

クレジットカード会員が利用覚えなし等の理由からカード会社への支払いを拒否した際、本人による購入が証明できない場合は、カード会社は該当の売上を取消、品代金の**買戻請求（チャージバック）**が発生します。

<チャージバックのながれ>



チャージバックが発生した場合、当社より加盟店様へ請求をお知らせし次回精算分より該当金額を相殺致します。

3. 不正利用を防止するために

注文時の与信承認で本人の確認がとれているのではないですか？

クレジットカードの取引で行う「与信承認」はカード情報（カード番号や有効期限等）の有効性を確認しているだけでカードユーザー本人であるかの確認ではありません。

本人であるかの確認には**3Dセキュアによる認証が必要**となります。



(1) 本人認証（3Dセキュア）とは

3Dセキュアとは従来の「クレジットカード番号」、「有効期限」入力に加えて「カードユーザーが登録したIDやパスワード」を入力することによる、本人認証の方法です。現在は「VISA」「JCB」「MasterCard」「AMEX」※の4ブランドで利用されています。 ※当社ではAMEXの本認証には対応していません。

実際の画面

メリット

- 不正利用が発生してもチャージバック対象外とすることができる。
※但し、不正利用が多発それに対して加盟店様が対策を全く打たない等、適用されない場合もあります。
- 加盟店様における、不正利用の確認業務を軽減することができます。

デメリット

- 購入者が3Dセキュアを認識しておらず、購入手続きを途中でやめてしまう可能性がある。
- すべてのクレジットカードを網羅しているわけではない。
(当社ではAMEX、Dinersが対象外)。

チャージバックの発生防止策はセキュリティコードではダメなの？

カード会社が推奨する本人認証は3Dセキュアとなり、セキュリティコードによる認証で不正利用が発生した場合はチャージバックの対象となります。セキュリティコードによる認証も有効ではあるもののカードの券面に記載されている3~4桁の数字で券面によるものであり「必ずしも本人の確認が取れているとは言えない」ためです。



(2) 注文内容や取引時の傾向から

注文時の購入者の情報や取引時の傾向から不正利用に気づくこともできます。怪しい注文は支払方法を代金引換等に切り替えることで防止する事も可能です。

- 同一購入者がクレジットカードの与信を何度か失敗した後、与信承認済で購入完了している。
- 換金性の高い商品を大量購入している。

・・・等。